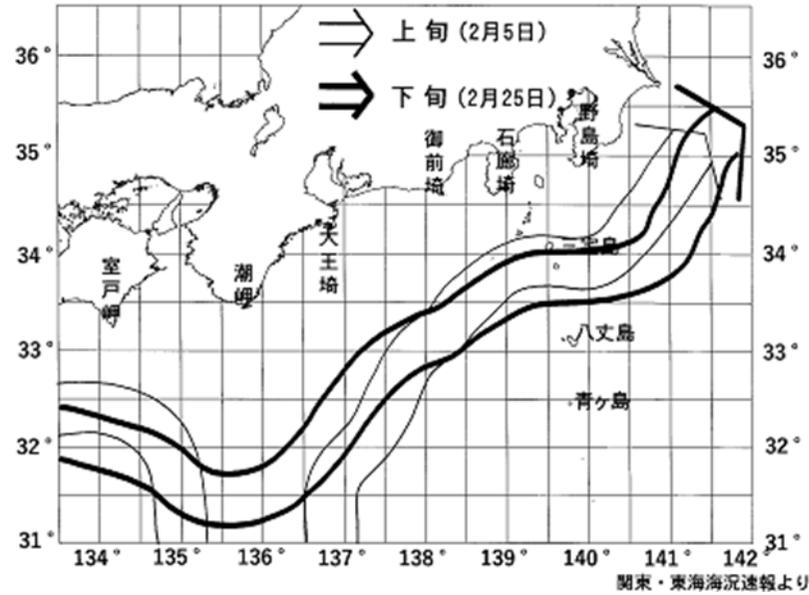


# 漁海況月報

令和7年2月1日

No. 2 ~2月28日

静岡県水産・海洋技術研究所  
(電話 054-627-1815)  
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年値\*からの偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	13.6	14.4	14.6	14.9	14.2	13.9
	-0.5	-0.3	0.3	0.6	0.0	-0.2
中旬	13.8	14.7	14.5	15.7	15.1	14.0
	0.0	0.3	0.3	1.2	0.8	-0.1
下旬	13.9	14.3	14.2	14.8	15.0	14.3
	0.1	-0.2	0.0	0.4	0.8	0.2
月	13.7	14.5	14.4	15.1	14.7	14.1
	-0.1	-0.1	0.2	0.8	0.5	-0.1

\*平年値：過去30年(平成3年~令和2年)の平均値

## 【黒潮流路】

2月を通じてA型であった。上旬~中旬は潮岬沖で大きく離岸していたが、中旬に蛇行部がらぎれたことで、それ以降は熊野灘沖を北東に進む流路となった。

上旬は潮岬沖で大きく離岸し、大王崎沖28.5°N付近から石廊崎沖34.0°Nまで北上した後東進し、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が遠州灘沖の黒潮北縁から熊野灘に向けて、石廊崎沖の黒潮北縁から大島西水道に向けて見られた。

中旬は潮岬沖で大きく離岸し、潮岬沖29.0°N付近から三宅島付近34.0°NまでS字状に進み、北東に流去した。その後蛇行部が切離され、切離部分は暖水渦となり潮岬沖30.0°N付近に滞留した。暖水波及が遠州灘沖の黒潮北縁から熊野灘に向けて、石廊崎沖の黒潮北縁から大島西水道に向けて見られた。

下旬は潮岬沖で離岸し、潮岬沖31.5°N付近から三宅島~八丈島間34.0°Nまで北東に進み、北東に流去した。暖水波及が大王崎沖の黒潮北縁から熊野灘に向けて見られた。

## 【沿岸域水温】

上旬は伊東で「やや低め」、稲取、下田、沼津、焼津で「平年並み」、雲見で「やや高め」であった。中旬は伊東、稲取、下田、焼津で「平年並み」、雲見、沼津で「やや高め」であった。下旬は沼津で「やや高め」、それ以外の地点で「平年並み」であった。

## 【竿釣カツオ】

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年も水揚げなし)。

## 【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は85.5トンで、前年(651.3トン)の13%、平年(261.1トン)の33%であった。また、1か統当たりの水揚量は12.2トン(前年:93.0トン、平年:37.3トン)であった。水揚量の多い漁場は、伊豆山漁場(37.9トン、さば類、マアジ、マルソウダ)、次いで古網漁場(16.5トン、マイワシ、マアジ、さば類)であった。

多獲された魚種の水揚量は下表のとおりで、さば類は27.8トン、前年比46%、平年比92%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは9.3トン、前年比61%、平年比1.3倍、ゴマサバは18.5トン、前年比42%、平年比73%であった。マアジは15.8トン、前年比57%、平年比32%であった。マルソウダは13.9トン、前年比1.6倍、平年比22.3倍で、昭和57年以降、最も水揚量が多かった。マイワシは7.4トン、前年比2%、平年比10%であった。スルメイカは4.3トン、前年比5.1倍、平年比18%であった。その他の魚種については、キハダが2.4トン、前年比8.5倍、平年比44.3倍で、昭和62年以降、最も水揚量が多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、下表のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、さば類では伊豆山漁場が75%(20.7トン)、マアジでは伊豆山漁場が63%(9.9トン)、古網漁場が23%(3.7トン)、マルソウダでは富戸漁場が58%(8.1トン)、北川漁場が15%(2.1トン)、マイワシでは古網漁場が86%(6.4トン)、スルメイカでは富戸漁場が39%(1.7トン)、谷津漁場が18%(0.8トン)、伊豆山漁場が15%(0.6トン)であった。

\*平年：昭和57年~令和6年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	27.8	0.46	0.92	伊豆山
マアジ	15.8	0.57	0.32	伊豆山、古網
マルソウダ	13.9	1.59	22.30	富戸、北川
マイワシ	7.4	0.02	0.10	古網
スルメイカ	4.3	5.10	0.18	富戸、谷津、伊豆山

**[サバたもすくい・棒受網]**

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい漁業主体で操業し、漁場は大島千波及び利島に形成された。水揚量はマサバ2トン（前年同月比3%）、ゴマサバ107トン（前年同月比68%）であり、1隻当たり水揚量はマサバ0.092トン（前年同月比3%）、ゴマサバ6.3トン（前年同月比84%）であった。

平均単価は、マサバは293円/kgで前年同月（260円/kg）を上回り、前月（213円/kg）を大きく上回った。ゴマサバは306円/kgで前年同月（202円/kg）、前月（218円/kg）を大きく上回った。

漁獲物の体長組成はゴマサバは35cmにモードを持つ単峰型を示した（マサバのデータなし）。

小川港 さば類（たもすくい・棒受網漁業）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		平均単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマ サバ			マサバ	ゴマ サバ	マサバ	ゴマ サバ	
R7年2月上旬	0	26	3	5	0.0	5.3	299	250	大島千波
中旬	0	42	4	5	0.0	8.3	364	312	大島千波
下旬	2	39	4	7	0.2	5.5	293	337	大島千波、利島
R7年2月計	2	107	11	17	0.1	6.3	293	306	大島千波、利島
R6年2月計	65	157	13	21	3.1	7.5	260	202	大島千波、利島
R5年2月計	112	446	15	32	3.5	13.9	290	205	大島千波

\*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。

\*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

**[まき網（いわし類）]**

マイワシの水揚量は、沼津港では34.1トン（前年同月5%、平年同月比4%）、小川港では36.9トン（前年同月比13%、平年同月比9%）であり、伊東港、静浦港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港ともに水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは7.4トン、カタクチイワシは水揚げがなかった。  
\*平年：過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値

**[調査船駿河丸の動向]**

2月 3日 ～ 2月 4日 地先定線観測調査 (2日間)  
2月 5日 ドックへ回航 (1日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

トップページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

海洋情報のページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/O1ocean/>

右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、  
関東・東海海況速報等を見ることができます。

